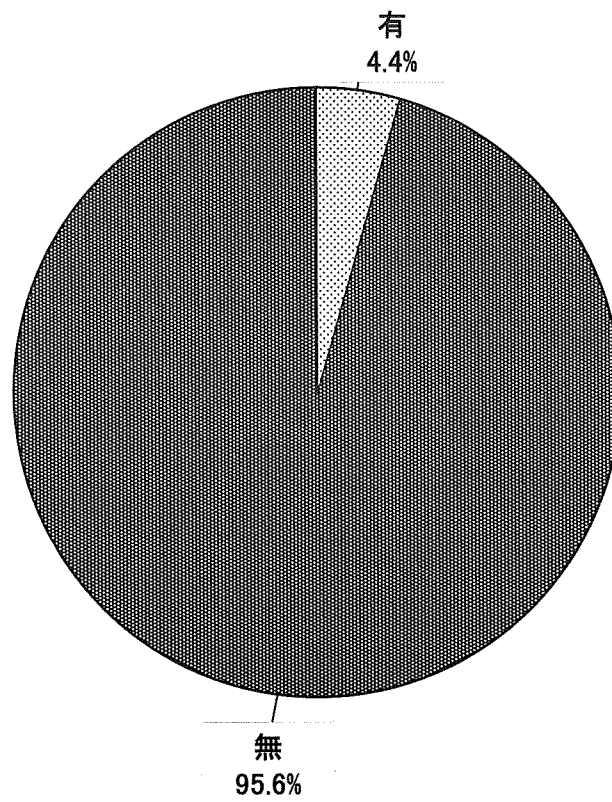


問1 施設状況 遠隔医療の実施 — 医師-医師間(実施の有無)

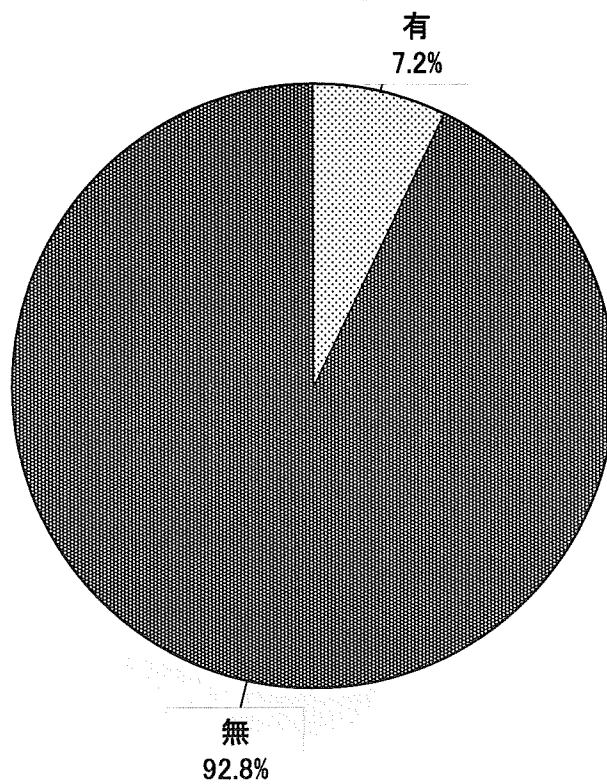
図診-1-c-1

診療所(問1-c)
(n = 1,047)



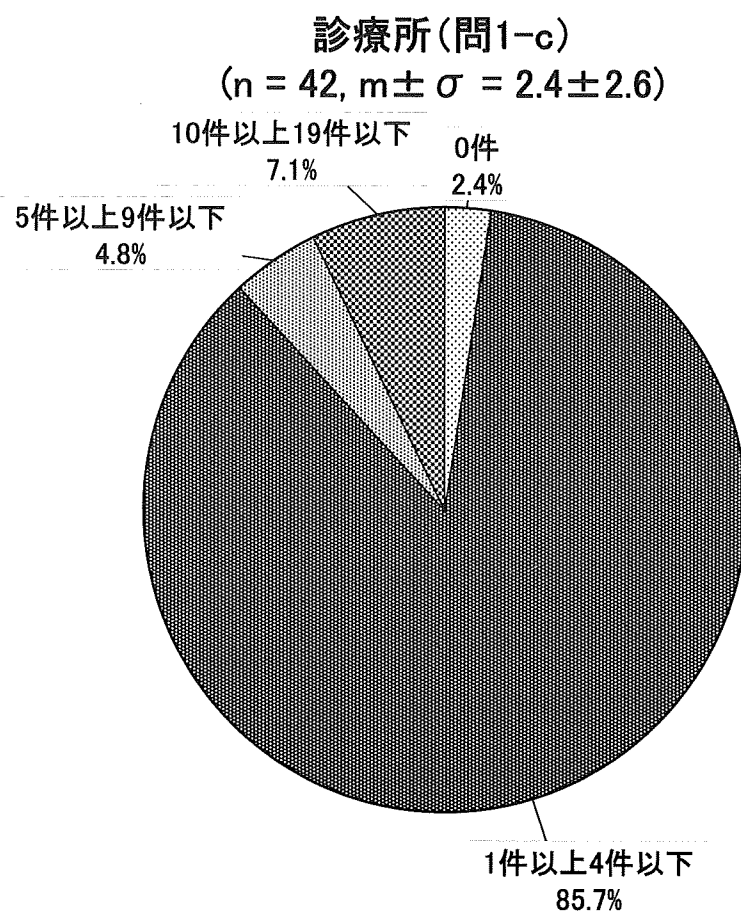
図病-1-d-1

病院(問1-d)
(n = 139)

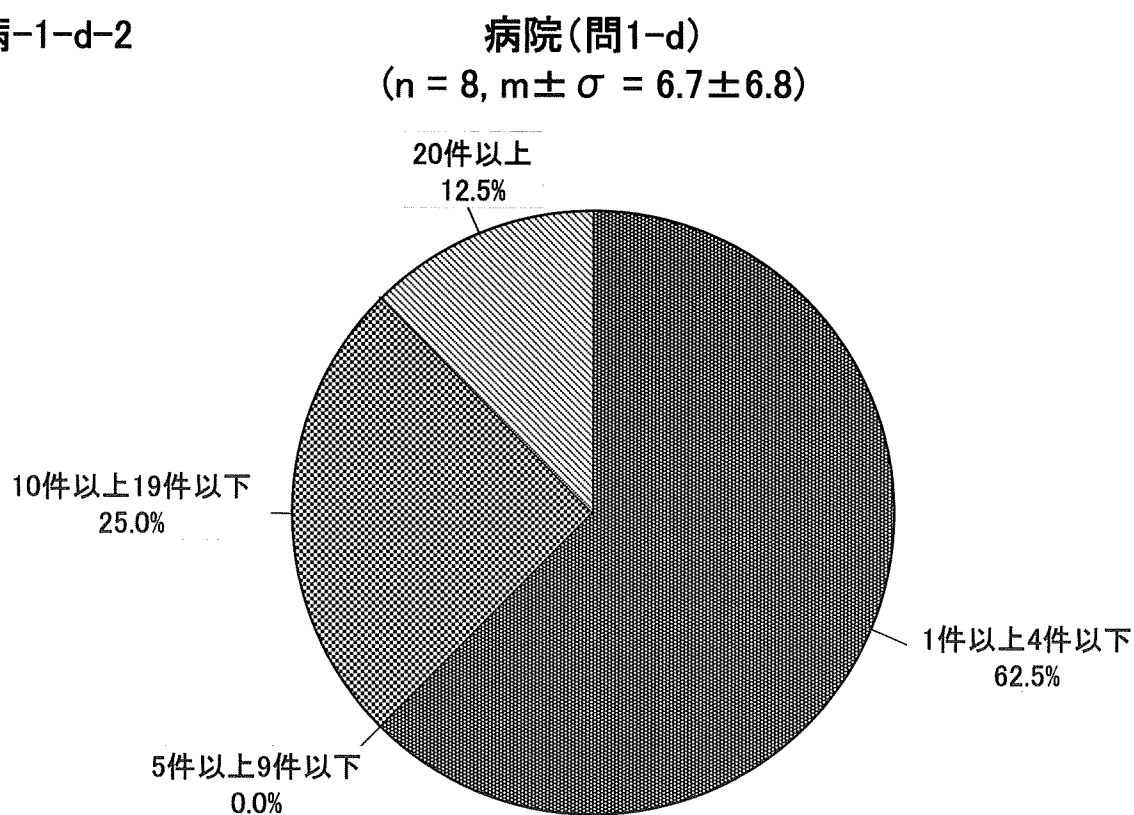


問1 施設状況 遠隔医療の実施 — 医師-医師間(実施件数)

図診-1-c-2



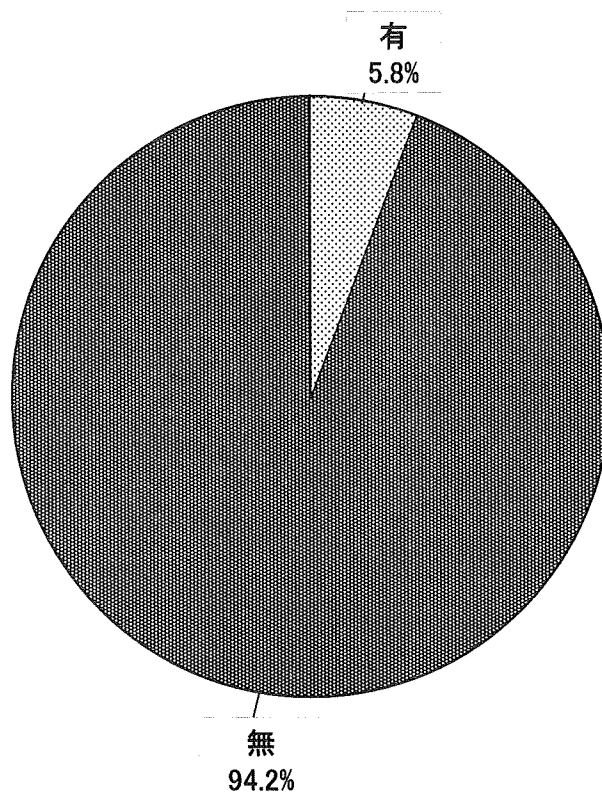
図病-1-d-2



問1 施設状況 遠隔医療の実施 — 医師-看護師間(実施の有無)

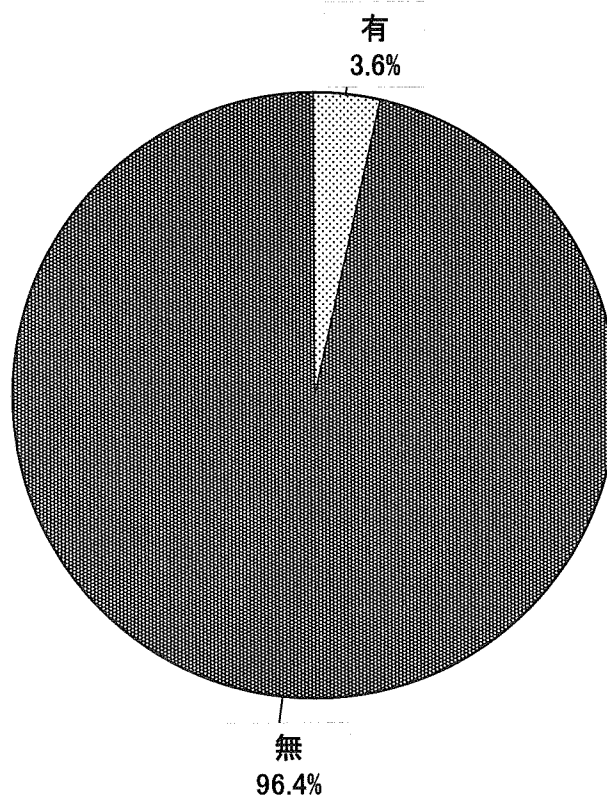
図診-1-c-3

診療所(問1-c)
(n = 1,036)



図病-1-d-3

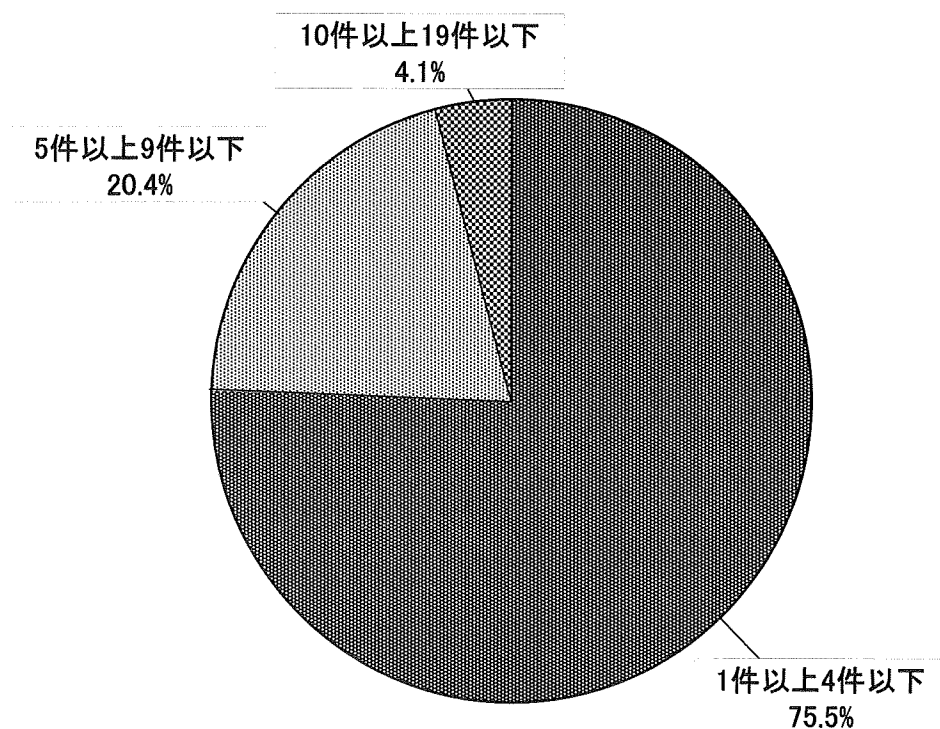
病院(問1-d)
(n = 140)



問1 施設状況 遠隔医療の実施 — 医師-看護師間(実施件数)

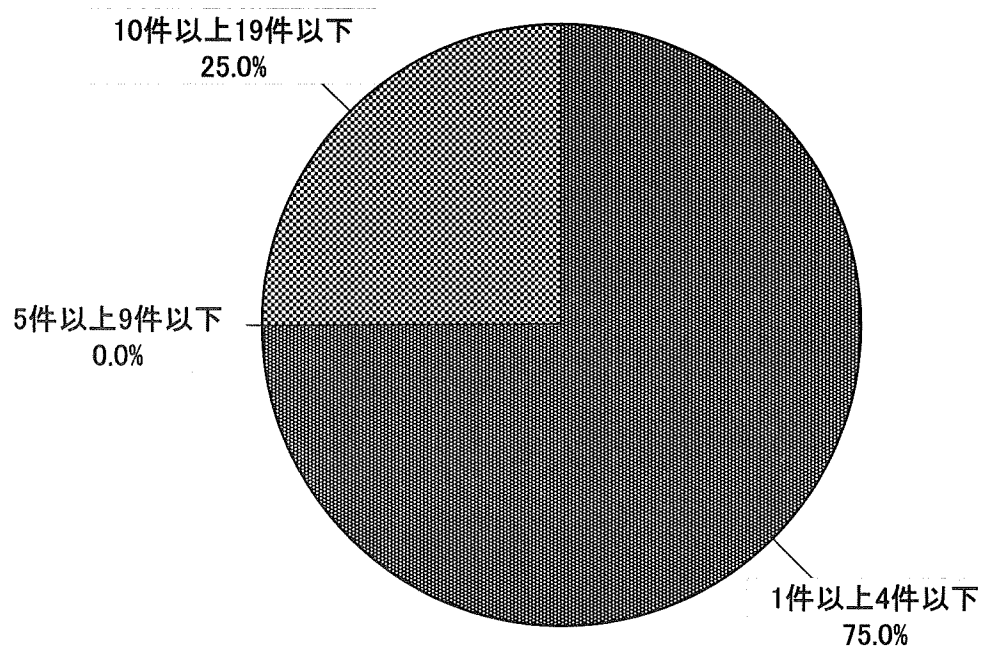
図診-1-c-4

診療所(問1-c)
($n = 49, m \pm \sigma = 3.0 \pm 2.8$)



図病-1-d-4

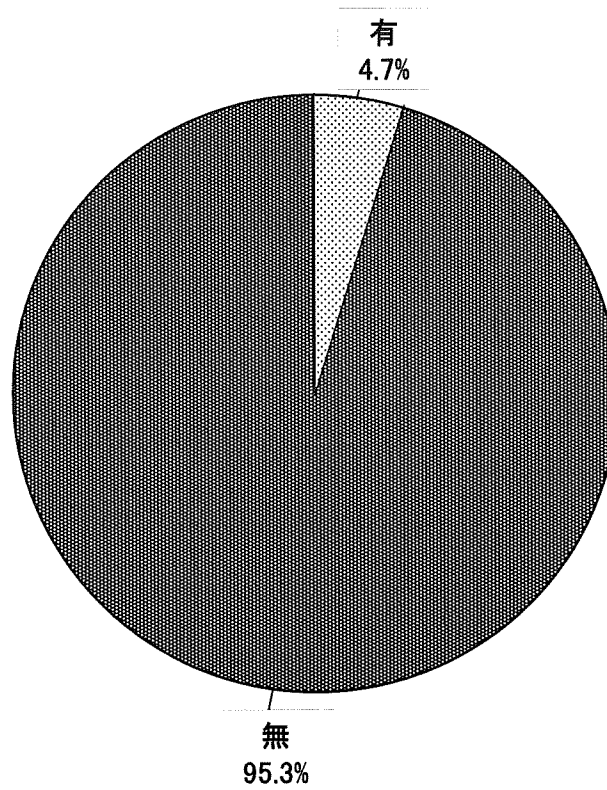
病院(問1-d)
($n = 4, m \pm \sigma = 5.0 \pm 2.9$)



問1 施設状況 遠隔医療の実施 — 医師-患者間(実施の有無)

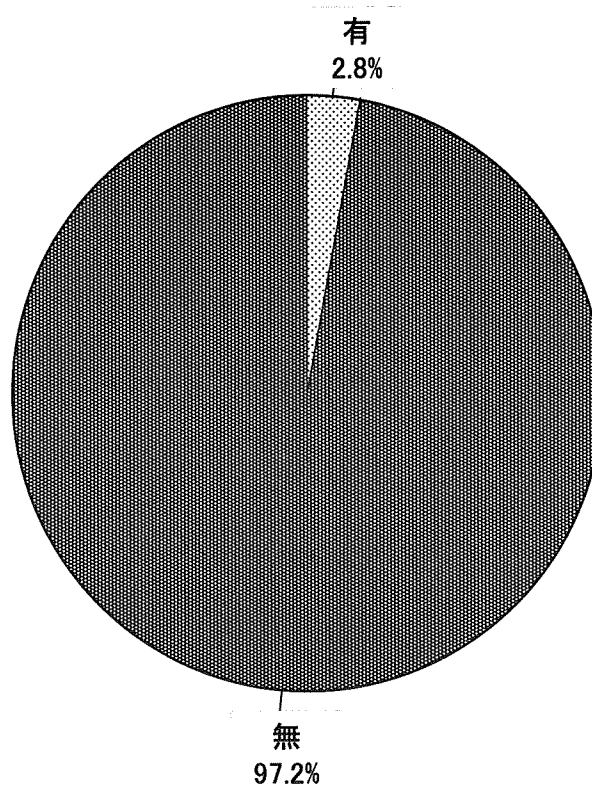
図診-1-c-5

診療所(問1-c)
(n = 1,041)



図病-1-d-5

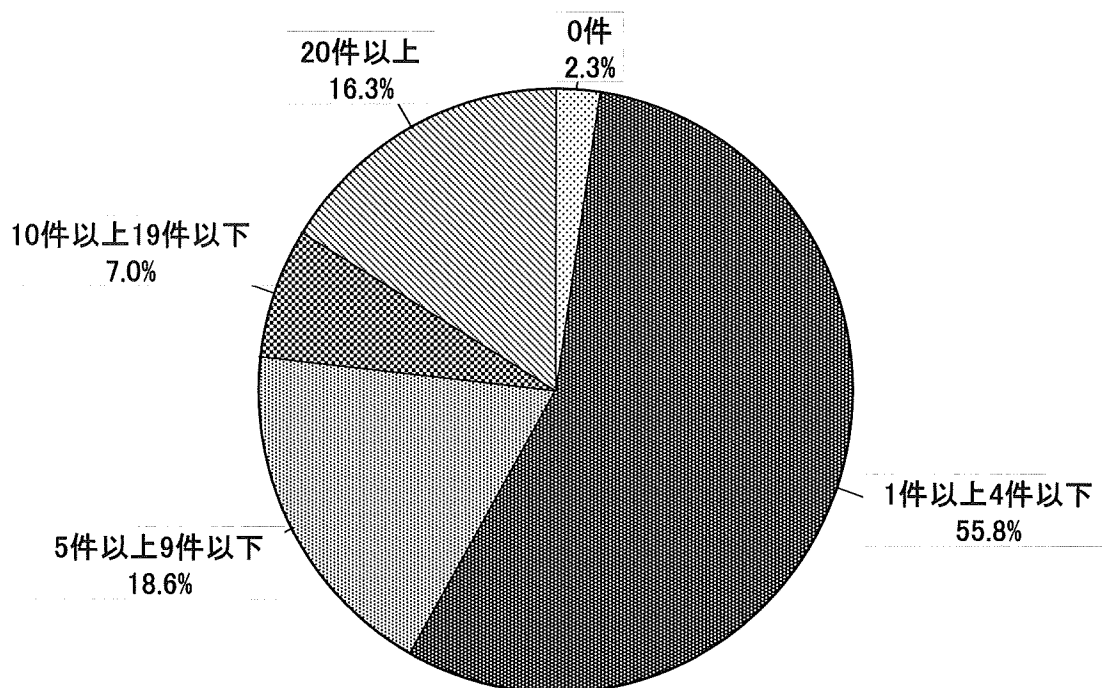
病院(問1-d)
(n = 141)



問1 施設状況 遠隔医療の実施 — 医師-患者間(実施件数)

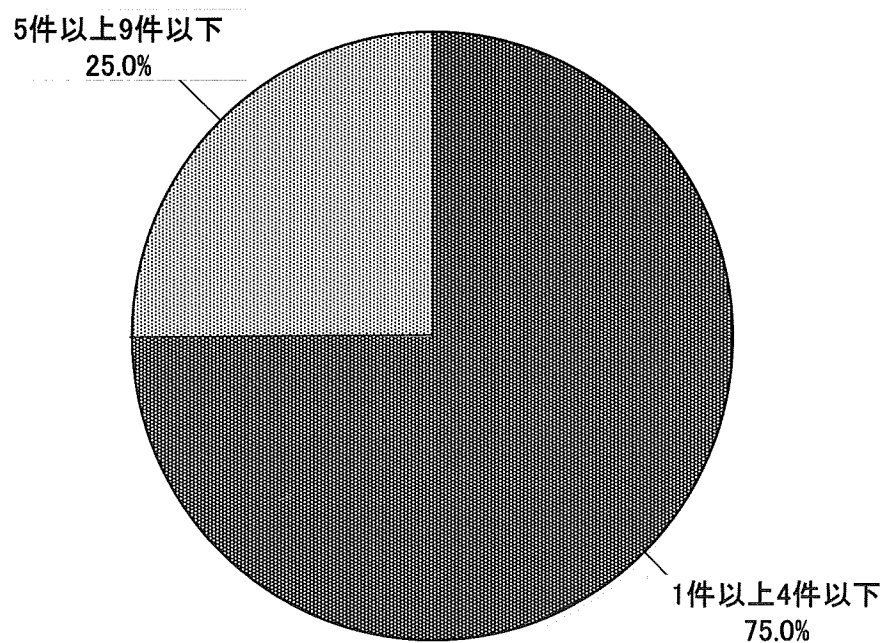
図診-1-c-6

診療所(問1-c)
(n = 43, m ± σ = 20.3 ± 55.0)



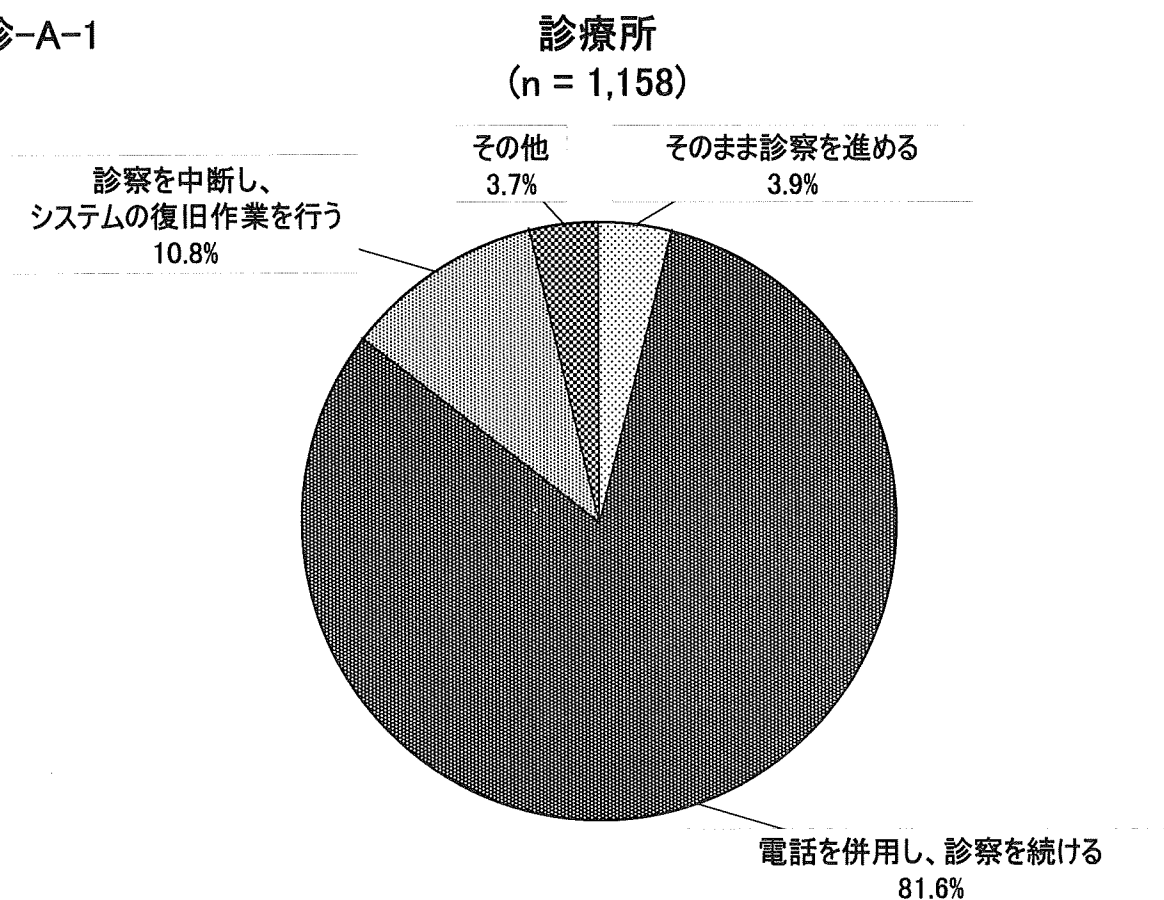
図病-1-d-6

病院(問1-d)
(n = 4, m ± σ = 2.9 ± 1.4)

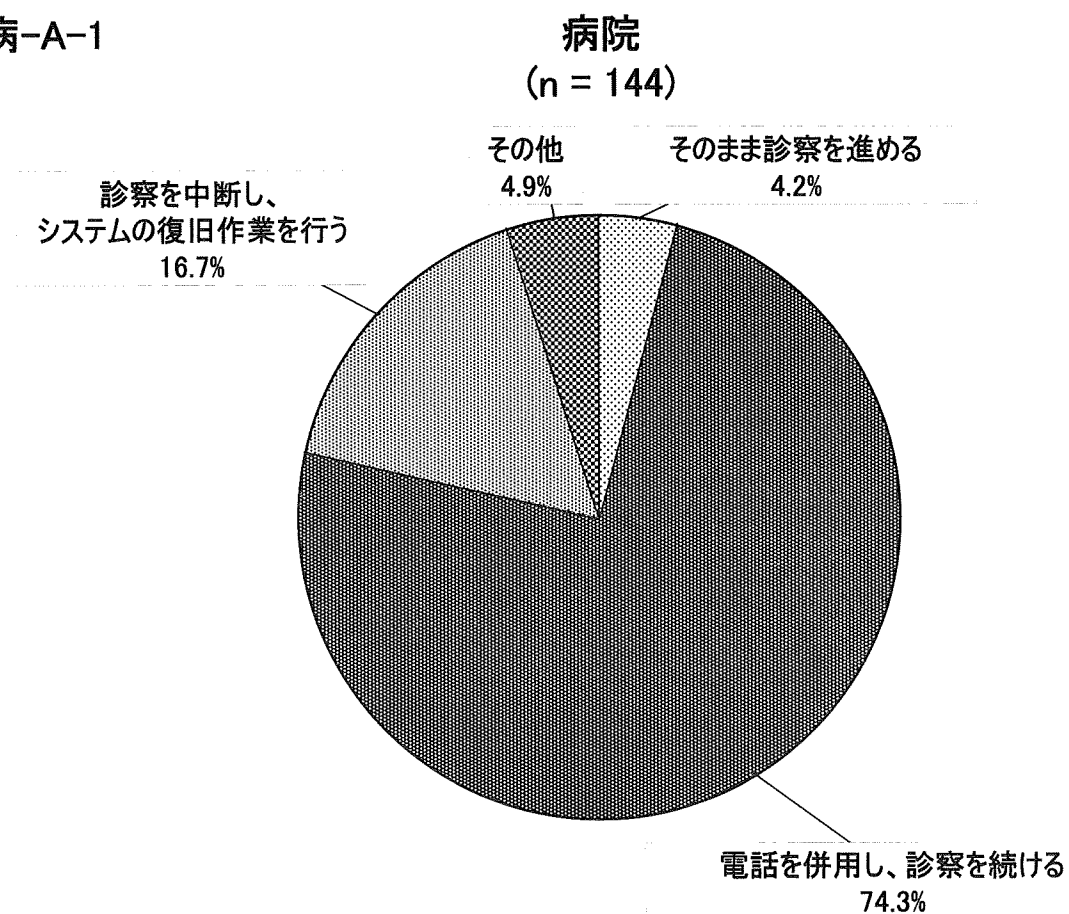


問A-1 仮に雑音や音声の途切れによって、十分なコミュニケーションが取れない場合

図診-A-1



図病-A-1



問A-1 仮に雑音や音声の途切れによって、
十分なコミュニケーションが取れない場合 — その他

表診-A-1 診療所

(2に注記)とにかく、相手に音声・画像が不■であることをつたえる。	患者宅を実際に訪問するよう調整する
往診に行く	(2と4の複数回答) FAXをおくりコミュニケーションの確認をする。
②と③を同時に進行させる	往診に切りかえる
往診する	テレビ電話は使いません
往診	ADSL、パソコン未導入
遠隔医療は大きな誤診につながるのでしたくありません	雑音の程度や、診察の緊急性により1～3は変化する
直接訪問し診察する。	担当の看〆師を決めてあるので、すぐ見に行く
直接訪問	(3に注記) 3と同時に往診す
そもそも参加しない本来の診療(国が決めている)無診察診療ではないか	実際に患者のところに往診し対面診察を行う
TVパソコンなし	可能であれば往診にきりかえる
自分が患者の家へいく。	往診する
全く想定できない	(2に注記) 2か3か、状況により異なるでしょう
その時の状態により1～3の選択する	(2に注記) あまりにTV画像がひどい状態であれば、中断の必要もあるかもしれません。
(2に注記) 経験したことがありません	診療中止し、来院ないしは、他院受診、あるいは往診する
(1と2の複数回答)	case by case
往診する	訪問診療にきりかえる。訪問の予定をたてる
直接往診する	行っていない
訪問する	(3と4の複数回答) 電話では無理である。患者の状態わからない
近くなら往診する	(2と4の複数回答) 他の電話やPCからかけ直す
(2に注記) 緊急性がなければ後(その日■で)往診	訪問
対面最初の印象に重篤感あれば患家へ行く又は電話連絡する	(2と4の複数回答) 具合悪そうならできるだけ往診する
電話のみ	
家族がいれば電話等で状態を確認するか、できる限り直接診察をする。	
自分で調べるかと思う。	
自分の車で往診に行く	
事務員、もしくは看護師に訪問してもらい、確認しつつ診察	
触診のない診療は考えられない	

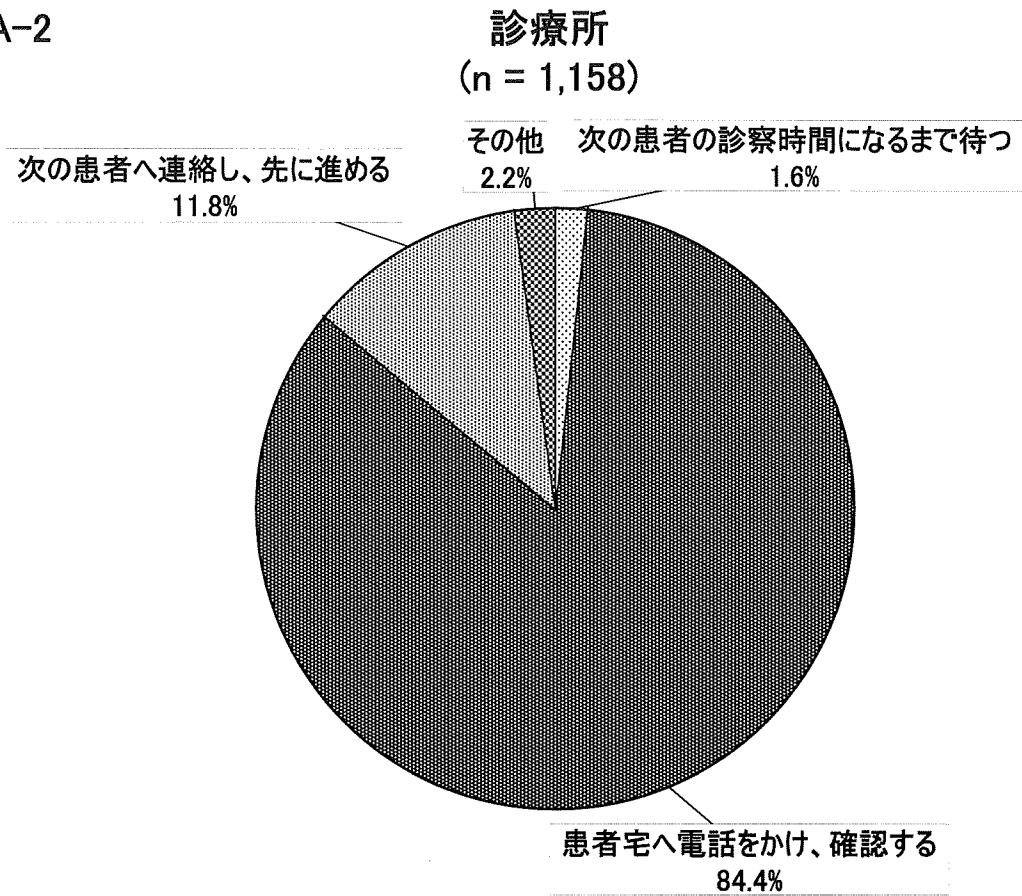
問A-1 仮に雑音や音声の途切れによって、
十分なコミュニケーションが取れない場合 — その他

表病-A-1 病院

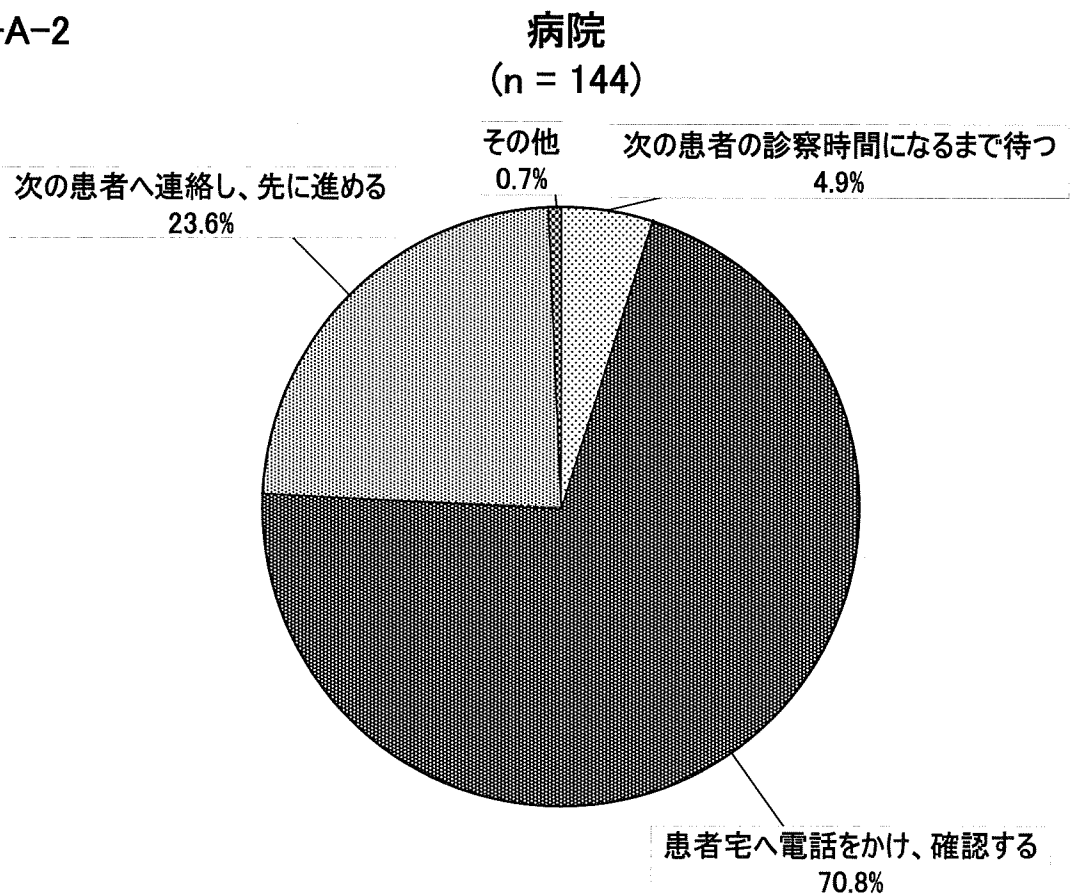
③+不調になるまでの状況判断で②にて後の指示
(2に注記)別のパソコンによる e-mail
(2,3の複数選択に注記)緊急性があれば2 緊急性がなければ3を待つ
あらかじめ時間を設定する
病状により対応異なる
その時の状況により判断する
他の人に復旧作業を行なってもらう。
来院してもらう

問A-2 患者が約束の診察時間になってもモニターの前に現れない場合

図診-A-2



図病-A-2



問A-2 患者が約束の診察時間になってもモニターの前に現れない場合 — その他

表診-A-2 診療所

(2に注記) 患者の電話番号がわかっているならば、まず連絡をするのが、筋だろう。
(1と2の複数選択)
遠隔医療は大きな誤診につながるのでしたくありません
(2と4の複数選択) 相手の都合が確認出来たらそれに従う。
(2と3の複数選択)
中止する
国の保険指導を約半年間行った立場として法律的な改正をしては…！！
TVパソコンなし
ナースにいったんまかせる
容態に変化があったのか確認する。患者宅or近所に電話をかけて安否を確認する
安否の確認をとる(独居の場合等)
(2と4の複数選択) 往診する(訪問看護に連絡する)
電話を待つ

状態の急変も考えられるので電話等で確認する
触診のない診療は考えられない
(2と4の複数選択) A-1と同様
TV電話なし
(2に注記) 連絡とれなければ事務員をハケンする
担当の看師が見に行く
(2に注記) TE出なければ看護師を行かせる or 近くに家に TELして様子を見てもらう。
(2と4の複数選択) 往診する
(2と4の複数選択) その上でいなければ次の患者さんへすすむ
case by case
スタッフに患者さんと連絡をとるように指示し、自分は次の仕事をする
行っていない
(2と3の複数選択)
患者宅へ行く

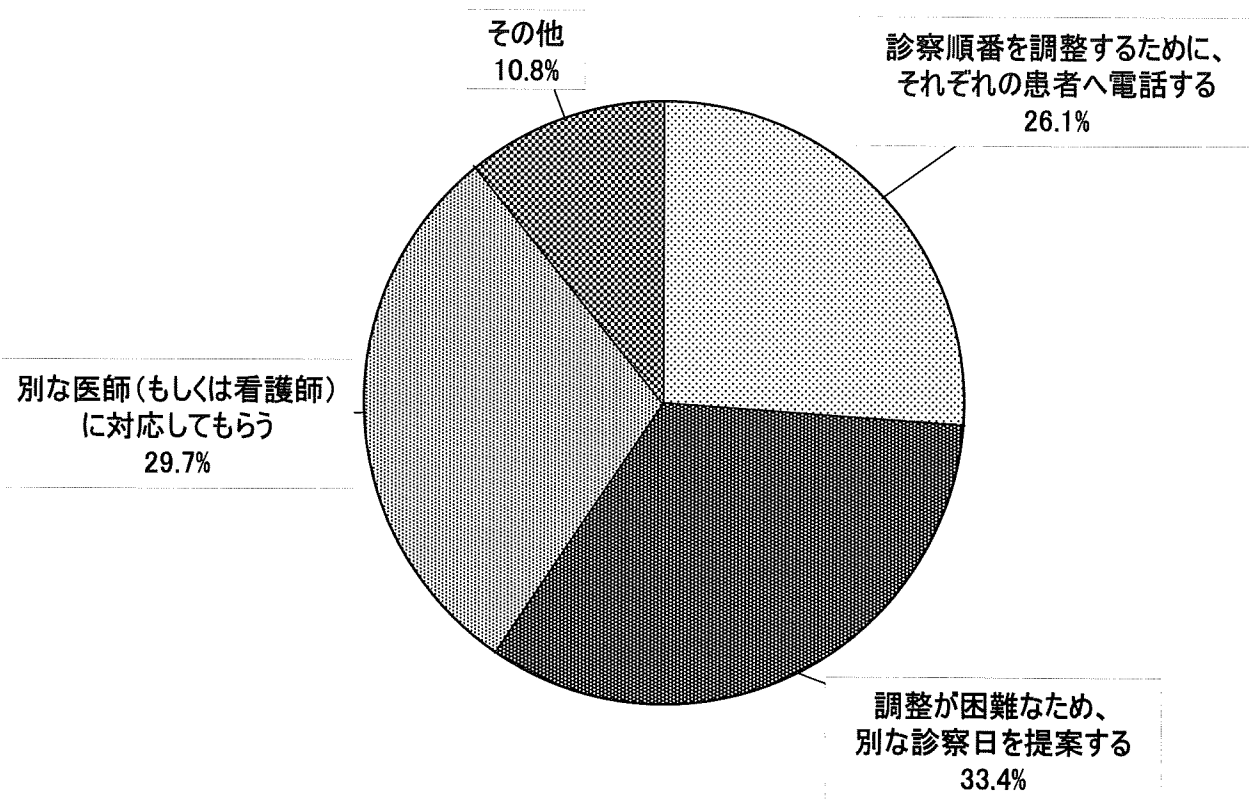
表病-A-2 病院

その患者の診療は中止とする

問A-3 患者から診察の時間を早めて欲しいと連絡がはいった場合

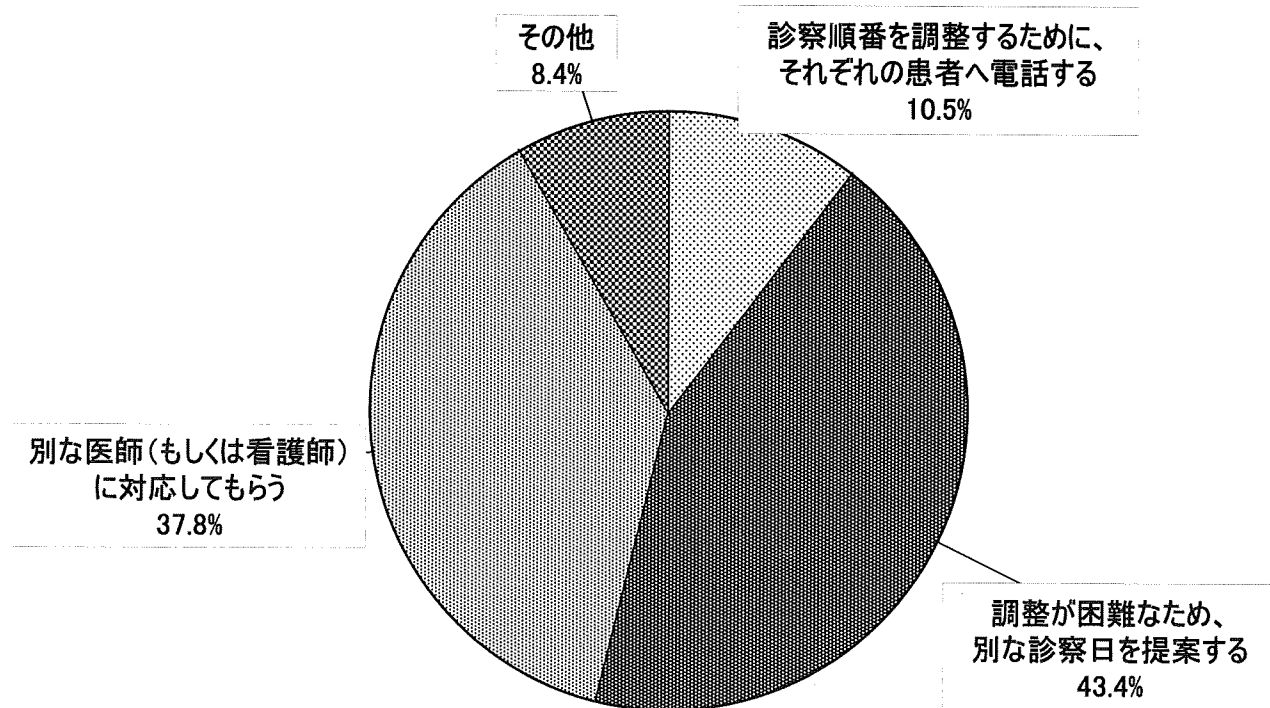
図診-A-3

診療所
(n = 1,155)



図病-A-3

病院
(n = 143)



問A-3 患者から診察の時間を早めて欲しいと連絡がはいった場合 — その他

表診-A-3 診療所

外来診療の状態でケースバイケースで対応	患者の状況、状態により1～3を選択
早く診療する	病状により判断
何とか希望をかなえる	緊急度により1、2、3全てあり得る
診察のスピードを早くする。	3の後に医師対応
早めてもらいたい理由により、No1かNo2で対応する	理由を聞き、状況によって対処する
順番を待ってもらう	理由をきく。緊急性があるならすぐ対応する。家族の都合など緊急性がなければ別の日を設定する
その時の体の調子が良ければ後日へ変更する。	看護師にその内容を確認してもらい内容によっては調整する
■間に得心したらむりやり調整する	ことわる
緊急性がなければ予定通りとする～後から調整	緊急なら対応でなければ2
ケースバイケース	事情を確認する
緊急性がある場合のみ対応する	原因を聞く
特別なことがなければ待ってもらう	少し待ってもらう説明して
遠隔医療は大きな誤診につながるのでしたくありません	状態を確認し、重症度とみて、1～3を検討する
電話での対応で決める 緊急性の有無など	早めて欲しい理由により、対応は異なる。
状態が悪ければ① 具合がよいなら②	要点を聞き、トライアージする
早めにする理由による	一番最後する。それも難しければ別に変更。
当院は完全予約制なので設定外です	早める必要のある症状かどうかにより、順番を調整します
早めて欲しい理由を聞き、急患ならば先に診察する	早める理由により対応する
(2に注記) 早めて欲しい理由による。緊急なら当然すぐ対応する。それ以外は2番	順番待ちの患者さんを優先する
早めて欲しい理由を確認しそれによって調整する	状態が安定している時は定期のくすりだけ処方し、診察日は後日提案する
心のない診療である	調節の可能な範囲で対応する
TVなし	状況により早める
その日の状況で①－③を考える	複数の患者を同時に診察する
あらかじめ病状以外で順番を早めることはないことを通知しておく	現在診察中の患者さんを早めにきりあげ、次にその人の診察を優先する。(しかし診察は極めて手短に)
緊急であればできるだけ早く対応。そうでなければお待ちいただく	TV電話診察と外来は、全て順番通り
緊急でなければお待ちいただく(急変など)	理由により必要なら入れかえる
よくわからない(対応が)	重症な患者さんであれば調整する

問A-3 患者から診察の時間を早めて欲しいと連絡がいった場合 — その他

表診-A-3 診療所

できる限り、希望に近い状況で診察する必要がある。状態が悪い事も考えられるので…	早めなければいけない理由をきく
あらかじめ、変更に対応できるように予定を組む	早めて欲しい理由を問い合わせる。その上で必要であれば調整する。
同時に対応する	ケースバイケース生命にかかわることがおきていればくり上げも必要
緊急性(必要性)の度合いによって対応が変わる	調整して早められるものは早める。その上で他への連絡が必要ならば他へ連絡する
状態が悪い様ならば看護師に対応してもらうが安定していれば別の日を提案する。	理由による
重症度により診る	緊急なら1、そうでなければ2
早めない順番通り	順番を守る様lec
1～3case by case	当日の対応は困難の■お話し予定通り行う以降は日時変更をする
緊急性があるかどうか確認して対応	case by case
(1と2の複数選択)	看護師がトリアージする(事情を聞いて対応する)
最初からテレビ電話の時間帯をわかる	(3に注記) 早める理由の確認
・理由を確認。・緊急を要するかどうかみて判断	別の日にする
順番まち患者数により対応はかわります	早める必要があるか否かよく聞いてから判断
途中わり込むようにする	ケース・バイ・ケース
状態の変化によるものであれば1に沿う形で調整。時間的な問題だけであれば2または3	診察時間を早めて欲しい理由を聞いて対応を考える
病状によるものであれば早める。用事等であれば別日に診察する。	行っていない
急変以外は対応できない、しない	容態により考慮
病状により柔軟に対応	病状によって対応をかえる。病状悪化等で急を要する場合は早める様に調整するか、他医に対応(訪問看護など)してもらう。安定していれば、待つ頂くか、他の日を提案する。
case by case	看護師に対応してもらう(緊急度を測る)
電話にて時間までまつ様に説得する(Nsなどが)	緊急でなければ2
テレビ電話は、患者の少い午後にする	わからない
具合わるいのか、患者さんの都合によるのか、によって対応異なります	診療が終わってから調整する
ケースバイケース	(1,2,3の複数選択)
緊急性があれば、短時間の割りこみで診療する。そうでなければ待ついただくか別の日にしていただく	症状によっては、時間を早める
緊急性の有無を確認する	別な時間又は診療終了
早めてほしい理由次第によります	(2と3の複数選択)
診療中である旨を告げ、待機してもらう	

問A-3 患者から診察の時間を早めて欲しいと連絡がはいった場合 — その他

表診-A-3 診療所

状態により対応を図る
状況により1、2(急を要する状態か否かによる)
理由により対応するかどうか決定
緊急度を聞いて緊急であれば①に個人的な用事であれば②にする
そのままテレビ電話をつづける。順番待ちの患者さんにはもう少し待ってくれるように言う
わからない
緊急があきらかなケースは1となるがそれ以外は2
内容による
今診察中の人を早くして、間に入れる
早める理由を確認。内容によって1～3を選択
可能なら早く対応する
(1と3の複数選択)
事務職員か看護師に調整してもらう

待ってもらう。緊急性の確認をする
同行の事務員がいるのでその人に①の調整してもらう
理由を聞いて必要な場合はあいだに入れる
可能ならば早める。無理なら後回しにする

表病-A-3 病院

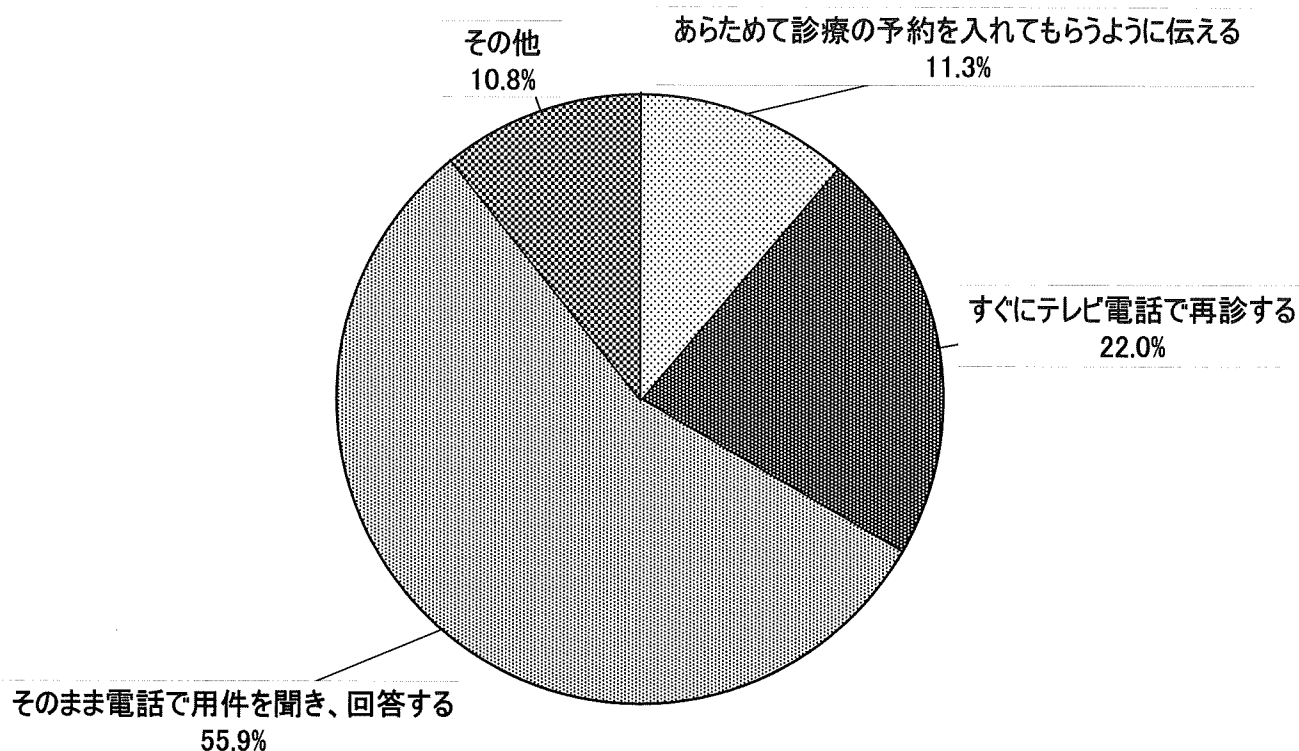
②に緊急性確認
受付で時間の調整してもらう
順番待ちの患者が数人なら1。多数であれば2
少しずつずらして調整
ケースバイケース
患者さんの状況を聞いてから判断する。
(3に注記)“待つように”
患者さんの希望時刻を聞き看護師が時間調整をする。
通常は②と考えるが、時間を早める理由による。別対応者のサポートが必要と考える
変化がなければ、簡単な診察で済みます。
早めて欲しい理由にもよるが、診察中の旨話し、すぐに何う事を話す。

早める理由を電話で聞き、相当の理由あれば調節する
イメージが定まりませんが文面上は緊急の事でなさそうですから、断るという選択があると思います。

問A-4 一度診察が終了した患者から「見て欲しいことがあったので
テレビ電話にて再診をしてほしい」との電話があった場合

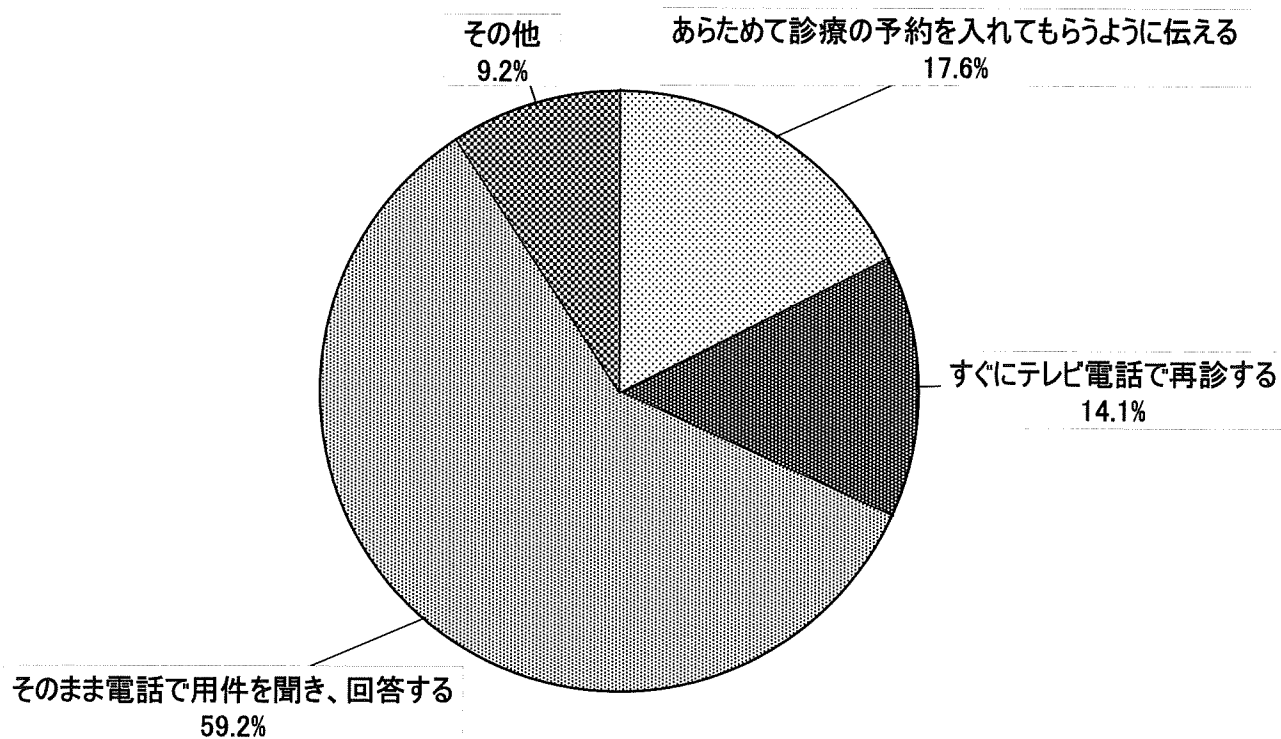
図診-A-4

診療所
(n = 1,155)



図病-A-4

病院
(n = 142)



問A-4 一度診察が終了した患者から「見て欲しいことがあったので
テレビ電話にて再診をしてほしい」との電話があった場合 — その他

表診-A-4 診療所

(1に注記)これが遠隔医療のマナーであり、この原則は変えられないであろう
後で連絡し、再診
あとでこちらから連絡する旨を伝えてもらう
外来診療の状態でケースバイケースで対応
緊急でなければ1とする
診察のきれめにて再診する
その日のうちに対応する
(3に注記)だめそうなときは再診
(2と3の複数回答)
電話で緊急性を判断して必要性があったらテレビ電話、再診する
電話で用件を聞き、必要であれば、テレビ電話で再診する。至急の用でなければ別の時間に予約してもらう。
緊急性の有無によって判断
職員に要件を聞いてもらい、対応を考える
3と2の併用で対応
ケースバイケース
時間に余裕があれば2、無ければ3
当日の最終に回す
時間があれば2、3ですめは可
遠隔医療は大きな誤診につながるのでたくありません
電話→テレビ電話で対応
(1と3の複数選択)
一番最後に
場合による
医師は本来「気」が通う位置にて診療する
TVなし
合い間をみて診察したり、他の医師にかわってもらう
別な医師又は看護師に対応、用件のチェック

他の患者の診察の間にもう一度テレビ電話再診する
電話で用件を聞いてから、どうするか判断
とりあえずの用件をうかがい、後で対処する
(1と4の複数選択)内容が急ぎでなければ1を選択。急を要する内容であれば2。
今の診察が終ってから電話する
しばらく待っていただき間の順に入れる
想定できない
緊急度により1、2、3全てあり得る
Ns対応
(3と4の複数選択)そのまま電話で用件を聞き、予定患者の診察終了後に、再診する。
内容による
緊急なら対応でなければ1
看護師がまず対応
病状による
時間が空いた時十分なテレビ電話する
すこし待っていただいて、あいた時間(その日のうちのなるべく早くに)診察する。
ケースバイケース
まずは患者様のお話を聞き、1、2、3かを決定させていただく
できるだけ早い診察の間に予約を入れる
状況ですぐにするか後日にするか判断する
他の予定が終了してから
診察中の患者が終ってから電話をかける
当日の最後あるいは空き時間に入れる。
全ての診療が終了次第、電話もしくは、テレビ電話で連絡する
ケースバイケース
「現在、テレビ電話で診察中のため後程連絡する」と伝える
理由により必要なら再診

問A-4 一度診察が終了した患者から「見て欲しいことがあったので
テレビ電話にて再診をしてほしい」との電話があった場合 — その他

表診-A-4 診療所

再診の時間を伝え、了承を得る。	診療中である旨を告げ、待機してもらう
あき時間にテレビ電話	診てほしかった内容をきく
(2と3の複数選択)	現在診療中の方が終わって再診
電話で内容を聞き、緊急度に応じて対応する	まず看護師に対応させる
看護師に用件を聴いてもらい、後からこちらから電話(テレビ電話含)する	可能な状態であれば再診
最後の順番にする	こちらの時間の空き次第で対応は異なる。なるべくならテレビ電話再開するが、同じような内容なら、同日再診とならないでしょうから、1回として考えるしかないでしょう。
後日2とする	他者診療中であればその方の診療終了後の再診とします
(3に注記) 電話再診(同日再)	すぐできる時はすぐ再診し時間を要する場合は次にづらすが、早めに診る。
内容により対応	現在診察中の患者さんの診療が終るまで待ってもらう
来院する様つける	電話で用件を聞き、緊急性があればすぐ対応。なければ予定の患者さんが終わった後に再診する
こちらから空き時間ができればなるべく早く再診するよう連絡をすると話をして待機してもらう。	何か問題が生じていると思われるため、受診又は往診を予定する
・理由を確認。・緊急を要するかどうかみて判断	予約患者終了後に再度診察する事を伝えて一旦電話を切る
緊急性を確認の上、対処方法を決める。	case by case
Ns対応とし、用件内容によって直接電話で回答するか、再診とするか、あらためて予約を入れてもらうか検討する。	可能なとき対応する
現在の診察がおわってから再診する	簡単な物なら③でそれ以外は①
状態の変化によるものであれば1に沿う形で調整。時間的な問題であれば2または3	その日の最後に再診する
手が空いたら連絡を入れる	現在診察中の患者さんの診察を終了してから、当該患者さんをテレビ電話で診察する
用件による	電話で用件が済むものかテレビ電話で状態を確認する必要があるのか確かめる。
落ち着いてからかけ直す	行っていない
予約の間に入れる	看護師に対応してもらい、後でこちらから連絡する
ケースバイケース	看護師等に対応してもらう
ケースバイケース。電話で対応可なら電話ですます時間に余裕があればNsに緊急性を確認させ緊急なら即時対応、そうでなければ時間空き次第対応	時間があき次第、Telすると伝え、少し待ってもらう。
用件を確認した後で内容により2or3	無理とことわる
上記3＋必要に応じてテレビ電話にて患者の状態を確認	まず電話で用件を聞き、テレビが必要ならテレビ電話で対応
現在診療中の患者が終了後に連絡して再診する	

問A-4 一度診察が終了した患者から「見て欲しいことがあったので
テレビ電話にて再診をしてほしい」との電話があった場合 — その他

表診-A-4 診療所

一番最後にもう一度診察する。
まずは電話で再診し、必要あればテレビへ
仕事の調整後テレビ電話で再診する
看護師さんの対応をお願いして緊急性の判断をして対処
看護師にて、用件を聞き、判断する
すぐ再診できれば対応し、不可なら時間の調整をする
とりあえず状況のわかるコメディカルに対応してもらう
診療の空きそうな時間(同日)に再度電話連絡をするように説明する
3もしくは2。その時の状況診てほしいことの内容によります
理由により対応
ケースバイケース
他の患者さんに迷惑かけないように調整し、今日中にテレビ電話で対応する。

内容を聞き、1～3を選択
(2に注記) 他のDr、Nsに聞きとりを任かせる。
別な医師、又は看護師に対応してもらう
看護師に現在の診察が終わったらTelする旨伝えてもらう
患者さんの状況により1、2、3で対応する
看護師に、内容を聞いてもらい緊急性があれば直ちに対応する
どちらが緊急性が高いか検討をし1又は2の対応をする
次の順番の人の前に連絡を入れる。内容により電話で即対応または同日中に再診する
再診理由により1、2、3と対応が異なる
用件をNsに聞いてもらってから必要なら電話で回答する
時間の都合がついた時電話をかけた上で診察をする

表病-A-4 病院

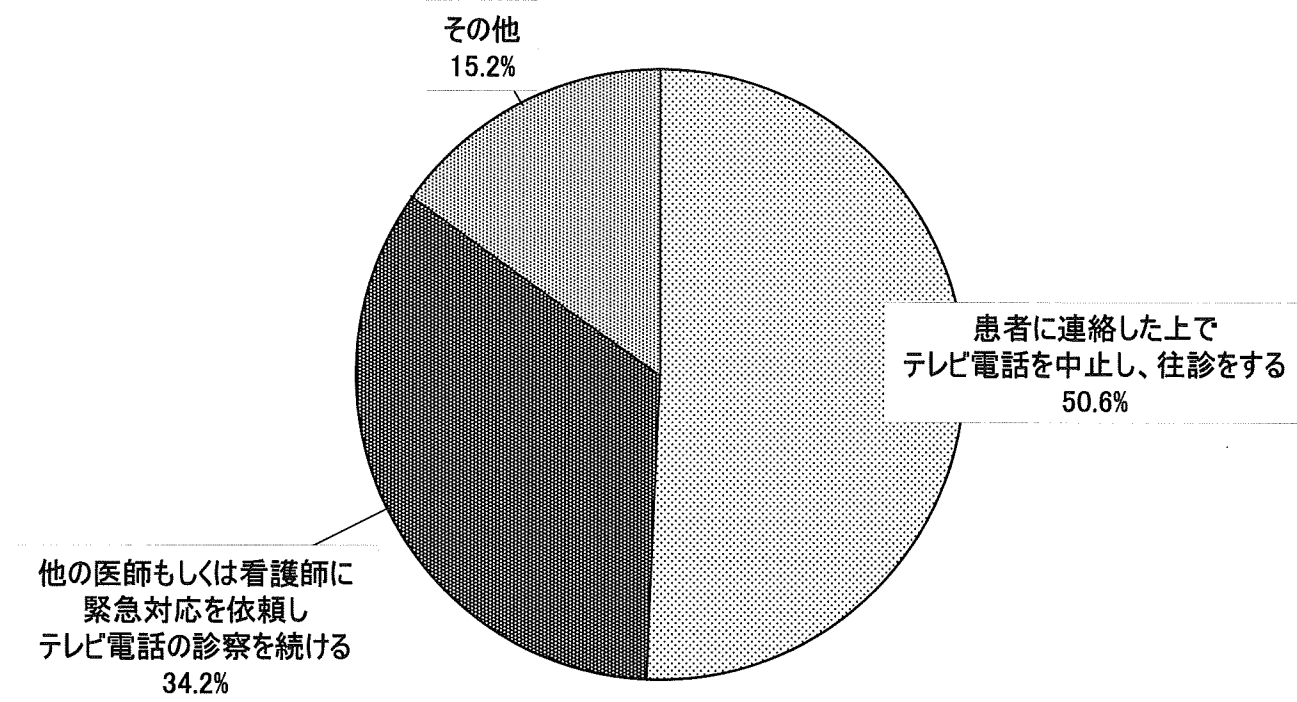
(1に注記) 急変時は対応
他者に対応を依頼
時間に余裕があれば再度TV電話に出る
診てほしい内容を看護師に聞いてもらい、必要性があるなら電話再診する。
受付で調整してもらう
終了後再診する
区切れのいいところまで待ってもらう
病状により決める
病状等に応じて1～3または、看護師に対応してもらう。
その日の最後に別枠で対応
患者さんの状況を聞いてから判断する。

(3に注記) Nsが「〇〇分後に再診しますのでお待ち下さい」などと伝える
別対応者で対応し決める
患者さんの状態による
その日の最後に診察する

問A-5 テレビ電話による診察中、往診の呼び出しがあった場合

図診-A-5

診療所
(n = 1,152)



図病-A-5

病院
(n = 143)

